

平成29年度 姉妹校等留学プログラム

バンクーバ姉妹校交流

(1) 学校・団体名/種類（派遣高校生的人数）

横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校／海外研修（2名）

(2) 渡航先

国/都市：カナダ/バンクーバー

外国の高校：David Thompson Secondary School

(3) 期間

平成29年9月19日～平成29年9月26日（8日間）

(4) プログラムの趣旨・目的

学問を広く深く学ぼうとする精神と態度を培いながら、潜在的な独創性を引き出し、日本の将来を支える論理的な思考力と鋭敏な感性を育み、世界で幅広く活躍する人間を育成するため、姉妹校交流を行う。

(5) 活動内容

- 高度な英語運用能力を身に着けるために姉妹校に通学し、授業に参加する。
- 異文化における体験や交流活動を通して国際コミュニケーション能力を養うために、姉妹校生徒宅でのホームステイを実施する。
- 世界に通用するコミュニケーション力を育成し、日本文化、横浜の文化・歴史、高校について英語でプレゼンテーションすることにより、日本人のアイデンティティを育み、さらに海外に発信する力を養成する。

(6) 実績・成果

○派遣高校生 RMさん

私は今回の海外研修に大きく3つの目的を持って参加しました。

1つ目は様々な人々との交流をすることです。日本では外国人と会って話すということはめったになく、今回の研修は多くの人々と出会うことができ、貴重な体験ができました。現地に行ってまず感じたのが、外国人に対しての壁の低さでした。日本に外国人が来たら日本人は話しかけづらくなってしまいます。しかし、彼らは全くと言っていいほどそれがなく、とても親密に接してくれました。特にヴィクトリアでの研修（写真1）では、行き帰りのバスの中で現地の学校の生徒と歌ったり、おしゃべりをしたりなどして一緒に楽しみました。彼らは最初からとてもフレンドリーで、外国人への壁が低いなど強く感じました。これからは私も誰に対しても今よりも積極的に接していき、様々な人と関係を作っていきたいと思っています。

2つ目はグローバルな視点で考える体験をすることです。カナダは民族のモザイクと呼ばれるほどいろいろな国の人が住んでいました。デイビッド・トンプソン高校で体験したのですが、現地の高校生との雑談の中で自分が日本で人気のあるスポーツの話をしたところ、様々な出身国の人たちが集まってきて、自分の国ではこうだよと言ってくれ、世界全体と話しているような感覚になりました。この経験からもっと他の国を知り、グローバルな視点で意見を交換し、より深い話し合いをしたいと思います。

3つ目は英語によるコミュニケーション能力の向上です。今回の研修でも、最初は、ホームステイ先で翌日の予定をたてるとき、正確に情報を共有できないこともありましたが、最終的には自分の伝えたいことをほとんど正確に伝えることができました。このような経験から、会話は普段の学校で学ぶ文法の正確性も重要ですが、少し文法が違ったとしても頑張って相手に伝えようとする姿勢も大切だと感じました。

私は、今回の研修で多くを学び、体験することができました。自分を支えてくださったすべての人に感謝し、研修で得たものをより深め、さらに自分を成長させていきたいと思います。



(写真1)

○派遣高校生 TSさん

僕は今回の姉妹校留学プログラムの一環として、カナダのディビット・トンプソン・セカンダリースクールと姉妹校交流を行い、DTの生徒家庭にホームステイをした。そこでYSFHについてや、日本の文化について英語でプレゼンテーションをしたり、DTの授業に参加したり、ビクトリア研修や市内研修を行ったり、日本ではできない経験ができ、姉妹校交流プログラムを通して自分を大きく成長させることが出来たと思う。特に、ホストファミリーや、DTの生徒と交流して、学んだことがいくつかある。

1つ目はとにかく感謝の言葉や、自分の思っていることをなんとしてでも伝えようとし、失敗を恐れずに言いたい事を簡単な単語だけでもいいからとにかく英語にして話すことが大切だということだ。たとえば、「yes」や「no」などで答えられる質問も、そのあとに少しでも英語を付け足すことによって、さらに会話がつながることもあったり、より話しかけられやすくなるということだ。僕はビクトリア研修の帰りのフェリーの中で、一緒に研修に行ったDTの生徒たちと話す機会があった。そのときに、自分が失敗

を気にしないように積極的に話そうと心がけたおかげで、そのDTの生徒と打ち解けあい、最後別れを惜しむぐらい仲が良くなれた。このことは、姉妹校交流プログラムの中で1番嬉しかったし、とても有意義な時間を過ごすことが出来たなと思った。

2つ目は、自分はどこへ行こうが何をしようが回りに支えられて生活しているのだということだ。これは、日本にいるときにもいろいろな人に言われてきたことだが、自分がここまで強く思ったのは姉妹校交流プログラムでカナダに行っている時がはじめてだなと思った。この姉妹校交流プログラムに参加できたのは親や、YSFHやDTの先生方だということ、そして何より自分がカナダで無事に1週間が過ごせたのはホストファミリーの人たちのおかげであることをカナダにいるときに改めて認識した。

僕は将来エンジニアになって世界の人たちと一緒に仕事がしたいという夢を持っていた。なのでこの姉妹校交流プログラムでのDTの生徒やホストファミリーの交流がとてもいい経験になったし、それだけでなく、カナダの歴史や文化など、日本では普段習わないこともカナダに行くことによって学ぶことができ、自分の視野が広がったと思う。また、今回の活動を通して自分の課題も発見できたので、これだけでは終わらず3月に日本に来るDTの生徒をホストしたり、またほかの機会に海外のプログラムなどでいろいろなところに行って、たくさん経験をつんでいきたいと思う。



DTでのプレゼンテーション



州会議事堂（ビクトリア研修にて）